

単元名 6 いにしへの心を訪ねる 一扇の的 「平家物語」から

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。
与一や義経の言動、扇の
的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えることができる。
(2) 「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めることができる。
(3) 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとする

標準的な展開例

11210216_001

【準備等】国語指導CD、再生機、「平家物語画帖」拡大図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 古典特有の表現やリズムに注意しながら朗読し、全体のあらすじを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目標(p.151)を確かめ、本時の学習課題をつかむ。 ★古文を繰り返し読み、あらすじを捉えよう。 ○与一が扇を射るまでの経緯を知る。 ○「扇の的」の全文の範読を聞く。 ○歴史的仮名遣いや文語文特有の言葉や語形、区切り方、七五調や対句表現などに気を付けながら朗読する。 ○現代語訳を参考にしながら、原文で書かれている部分のあらすじを捉える。 <p>2 場面の状況や登場人物の心情を読み取り、表現技法の効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「扇の的」の原文を朗読する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★場面の状況や人物の心情を読み取り、表現の効果について考えよう。 ○扇を射るまでの部分(p.152～p.153)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。 ○扇を射る場面(p.154)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。 ○朗読した部分に用いられている表現技法を知り、その効果について考える。 <p>3 物語に描かれているものの見方や考え方について自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 ★物語に描かれているものの見方や考え方について、自分の考えをもとう。 ○的を射た場面(p.154～p.155)を読んで、場面の状況や登場人物の心情を捉える。 ○「弓流し」(p.156)の場面を読み、場面の状況や登場人物の心情を捉える。 ○平家物語に描かれているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れについて簡単に説明しておく。 ・場面の状況や那須与一、義経の言動に着目しながら、「本文」(p.151～p.152)を読む。 ・国語指導CDを利用してもよい。 ・歴史的仮名遣いや古典特有の言い回しなどに注意しながら聞かせる。 ・個人、隣同士、グループ等、形態を変えながら練習をさせるとよい。 【評】古典特有の表現やリズムに注意して朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・次の三つの場面を確認する。 ①義仲に都を追われた平家一門が、さらに屋島に退くまでの場面 ②若い郎党でありながら、義経の命令に覚悟を決め、合戦の命運を託された那須与一と主君の命を受けた与一が男の首を射貫く場面 ③戦いの中、自分の弓を落としてしまい、弱い弓と言われることを恥とし、危険も顧みずに義経が拾い上げる場面 ・朗読を繰り返しながら内容を把握させたい。 ・緊迫した状況の中での、与一の言動に着目させ、心情に迫りたい。 ・原文とともに、那須与一、扇の的を射る「平家物語画帖」(p.152)を参照させ、情景を想像する手がかりとする。 【評】場面の状況や人物の心情を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・対句、擬声語、色彩表現、内心を描く表現などに気付かせたい。 ・緊迫した状況の中での与一の心情について、もう一度確認する。 ・「年五十ばかりなる男」が舞った理由、男を射倒した与一の心情、「あ、射たり。」「情けなし。」と正反対の声が上がった理由について、文章表現を根拠にして考えさせたい。 ・弓を拾おうとしたことについての、老臣の考えと義経の思いを比べて、自分の考えをまとめさせる。 ・文章表現を根拠にして、自分の考えをまとめさせる。 【評】平家物語に描かれていることに対して、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】